街角とあなたをネットする暮らしと文化の情報紙

まちかど

●荏原第一地域新聞●

第174号
平成29年(2017)9月発行
発行・事務局
○荏原第一地域センター○
小山3-22-3（〒142-0062）
TEL 3786-2000
FAX 3786-5385

9月は「防災月間」です
地震に対する備えと非常食について

▼9月1日は「防災の日」

大正12年9月1日は、関東大震災が発生した日で、この日を「防災の日」としています。近い将来に発生が予想されている首都直下地震に備え、身の安全を最優先に、地震発生時の適切な行動を定着させましょう。

▼地震に対する10の備え

※【身の安全の備え】
①家具類の転倒・落下・移動防止対策
↓家具やテレビ、パソコン等の固定
②けがの防止対策
↓ガラスの飛散防止や懐中電灯をすぐ使える場所に置いておく
③家屋や塀の強度の確認
↓ブロックやコンクリート塀は補強
※【初動対応の備え】
④消火の備え
↓消火器の準備や風呂の水のくみ置き
⑤火災発生の早期発見と防止対策
↓住宅用火災警報器の設置、普段使用しない電気器具はコンセントを抜く
⑥非常用品の備え
↓非常用品は置く場所を決めて準備
※【確かな行動の備え】
⑦家族との話し合い
↓安否確認の方法や集合場所を確認
⑧地域の危険性の把握
↓防災マップ等で地域危険度を確認
⑨防災知識を身につける
↓防災に関する情報収集と知識の蓄え
⑩防災行動力を高める
↓日ごろから防災訓練に参加する

▼防災訓練のおしらせ

荏原第一地区の防災訓練は、10月15日（日）午前9時より林試の森公園で実施されます。地区の防災訓練に参加して防災行動力を高めましょう。

（荏原消防署　小山出張所）

▼非常食を食べ回しながら備蓄

品川栄養士会では、食べ回しながら備蓄する方法、「ローリングストック法」の提案をしています。これは、長期保存が効く缶詰などの非常食を、その期間まで食べずに置いておくのではなく、日常的に非常食を食べて、食べたら買い足すという行為を繰り返すことです。

災害時だけではなく、日常的に非常食を食べる調理法をご紹介します。

★ビーンズカレー（1～2人分）

【材料】
・ミックスビーンズ缶　1缶
・アルファ化米　1パック
・レトルトカレー　1～2人分

【作り方】
①アルファ化米を作り、レトルトカレーをかける。ミックスビーンズをのせて食べる。

★サバのイタリアントマト（1～2人分）

【材料】
・サバの水煮缶　2分の1缶
・トマト水煮缶（ダイスカット）80グラム
・コショウ　少々

【作り方】
①材料を和える。お好みでオリーブオイルをかけて、パンやクラッカーにのせて食べる。

缶詰利用のビーンズカレー

今回は缶詰を使って手軽にできる調理法をご紹介しましたが、この他にも、乾燥ほうれん草を使ったお浸しやオムレツ、スキムミルクを使ったスープなど、非常食の食べ方は様々です。ぜひ、みなさんも日常的に非常食を利用して、食べたら買い足す方法で調理してみてください。

（品川栄養士会）

花めぐり
タマスダレ

花の名の由来は、葉がたくさん茂っているところが簾のように見え、タマは花に見立てているそうです。

タマスダレは、彼岸花科の多年草で、球根草。高さは30センチくらいです。

地下で分球して増えて、8月～10月に白い花（黄、ピンク、オレンジ色もあり）を次から次へと咲かせます。花弁は6枚です。

花は上を向いて咲いていて、白い花と雄しべの黄色の配色がすがすがしい美しさです。ズラッと並んで咲くとなかなか壮観です。一度植えると何年も咲いてくれます。

葉は常緑性でプランターならば2～3年に一度植え替え、花壇なら4～5年に一回球根を分けてやると良いです。あさひ公園のタマスダレも一株から始めました。

ニラやノビルに似ていますが、全体が有毒です。

原産地は、南アメリカペルー。花言葉は、慎重繊細なこころ。

（小山2丁目東部町会　山内　静子）

ふるさとまつり2017
～荏原4丁目町会で今年も賑わう～

荏原4丁目町会では、毎年7月の最終日曜日に「ふるさと祭り」という盆踊りをメインにした夏祭りを行っています。

今年は、前日の雨でかなり心配しましたが、当日は天候にも恵まれ、盛大なふるさと祭りが開催できました。

模擬店は、焼きそば、焼き鳥などをはじめとするフードコーナー。また、ゲームコーナーもあり、小さい子どもたちが元気に楽しく遊んでいました。

ステージでは、子どもを中心としたフラダンスの発表。アトラクションは、バルーンアートやフェイスペイントと、すべての所で長い行列ができ、常に笑顔の絶えない楽しい夏祭りとなりました。

そしてメインの盆踊り。中央で太鼓を叩くのは町会の子どもたちを中心とした栄太鼓のメンバー。未就学児から中学3年生までの希望者が叩いています。子どもたちは、祭り前の1週間は毎日練習に励み、初心者の子どもにはみんなで教えてあげ、経験者の子どもはさらなるレベルアップに取り組み、本番当日は全員が立派な姿を披露していました。

栄太鼓のメンバーで記念写真

子どもたちに喜んでもらう目的で行っているふるさと祭り。多くの方々のご協力を得て、今年も素晴らしい祭りになりました。ありがとうございました。来年も子どもたちがもっと喜べるようなふるさと祭りにしたいと思っています。

（荏原4丁目町会　西山幸男）

◎シリーズ◎ 駅前再開発
⑥再開発第二期に思う
～武蔵小山駅前通り地区～

第一期の駅前再開発で、地下の基礎工事がそろそろ終了し、もうまもなく、一階二階と外観が見え始める頃だろうか。その工事と並行して、いよいよ武蔵小山駅前通り地区の再開発が動き始めた。

8月に入り、武蔵小山駅より一番遠い部分から本格的な囲いと取り壊しが始まった。傍に立ち、改めて現場を眺めていると、これまでの歴史が失われていく様な、胸に熱いものがこみあげてきた。数年後に全く新しい環境が生まれてくるのだなと思いつつ、自らの胸の熱さを抑えているのを感じる。そして、この時代の変遷の中に泳ぐ自分をみると、ある意味、幸せを与えてくれたこの世に感謝するべきかなとも思う。多くの自分の年齢くらいの人たちは、同じような感傷と、せめて健康なうちに　新しい世界につかりたいと願うだろう。いち老人より素直な感想まで。

（小山2丁目西部　髙橋元嘉）

街角ウォッチング
～武蔵小山温泉～

遠くの地から車で来場するほど広く有名になり、多くの人々に喜びを与えている「武蔵小山温泉」。地域の人々にとっては「清水湯」という名称が耳に残っています。筆者も小学校時代（1950年代）は、毎日「清水湯」に行きました。

当時は、内湯を持つ家はほとんどありませんでしたから、学校から帰りすぐ家の外に出て日が暮れるまで皆で遊び、汚れた体と汗を流すには行水とお風呂屋さんしか無いのです。風呂屋へ行くと、そこにはまた悪友がいて、再びそこで風呂屋さんが顔をしかめる遊びを毎日しておりました。

その頃は半径500メートル以内に数件の風呂屋さんがありました。荏原一丁目の「橘湯」、小山台一丁目の「安楽湯」、小山三丁目の「八光湯」などです。今は、皆、廃業しました。

そんな逆境の中で、二代目（現在の後継者は三代目）が奮起して温泉を掘り当てるという一大決心をし、平成6年に見事採掘に成功。風の便りでは、1000メートルも掘ったそうです。真っ黒な温泉でした。当時は黒い湯として評判が広まったのでしょう。

三代目は建物も一新して、これも風の便りでは1500メートルも掘ったそうです。また新しい温泉を掘り当てて現在の評判につながっています。でも、感心するのは料金が以前と変わらずで頑張っているところです。

皆様の町の温泉として、いつまでも残っていてほしいです。

※「武蔵小山温泉」（月曜定休・入泉料460円）
品川区小山3－9－1　　（小山2丁目西部　髙橋元嘉）

◎各ご家庭に配布しております。一部ずつお取り下さい。次号『まちかど』は１０月２０日（金）発行の予定です。

「まちかど」は、品川区役所ホームページからもご覧いただけます。　http://www.city.shinagawa/tokyo.jp/

古紙を配合した紙を利用しています。